



花火ができるまで



1.配合

配合する薬品や金属粉の種類、配合で、光や色、音が違ってきます。

2.星掛け

花火の色を決める火薬が星。乾燥を繰り返し大きくなります。



3.割薬

割薬は星を遠くに飛ばすための火薬。星と同様、乾かしながら完成させます。

4.玉詰め

玉皮に星を並べ、和紙を敷いた中央に割薬を詰めて合わせます。



5.本詰め

小さい芯を作り、次の大きさの中心に入れます。均等にするために独自の道具が重要になります。



6.玉貼り

花火の玉にクラフト紙を何層にも上貼りしていきます。



7.完成

貼っては乾かす作業を繰り返し完成します。



▲糸井社長は五代目。自由な創作環境を設け若手をバックアップする、頼もしい存在です。

歴史と伝統を受け継ぎながら新たなステージへ

糸井火工の創業は明治6年。百四十年の歴史を誇ります。五代目として後進の指導に当たるのが社長の糸井一郎さん。二十二年には、その極めて優れた技術と、産業の発展に貢献した実績が認められ、福島県技能者(県の名工)として表彰されました。

工場長の相谷さんは、糸井火工を牽引する若手の一人。新しい花火作りに日々取り組んでいます。打ち上げの時に花火を見る余裕はないそうですが、

時代とともに高い演出力が求められるようになった花火業界で、いち早くコンピュータを導入した糸井火工。企画力の高い作品を創り、さらなる高みを目指していた矢先に発生したのが東日本大震災と原発事故でした。糸井社長は「この仕事はもうダメだ」と思ったそうです。しかし乗り越えたことが力になりました。「どんな状況でもやれる自信があった」と意欲を見せます。



▲工場長の相谷さん



聞こえてくるお客様の歓声に、やりがいを感じるそうです。「歓声が、これ以上に繋がっています」。

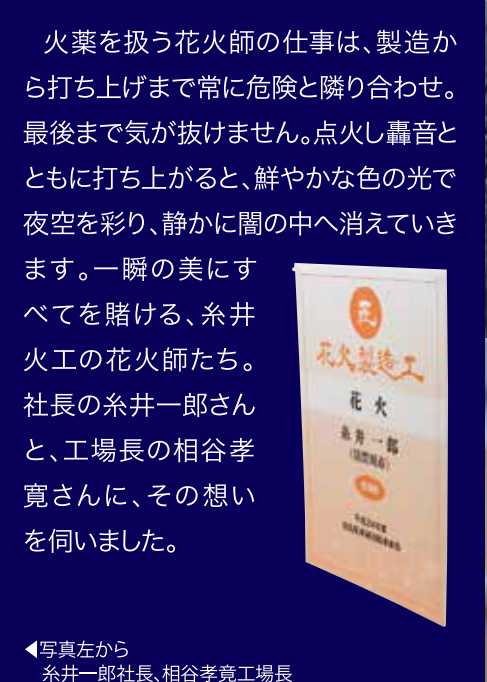
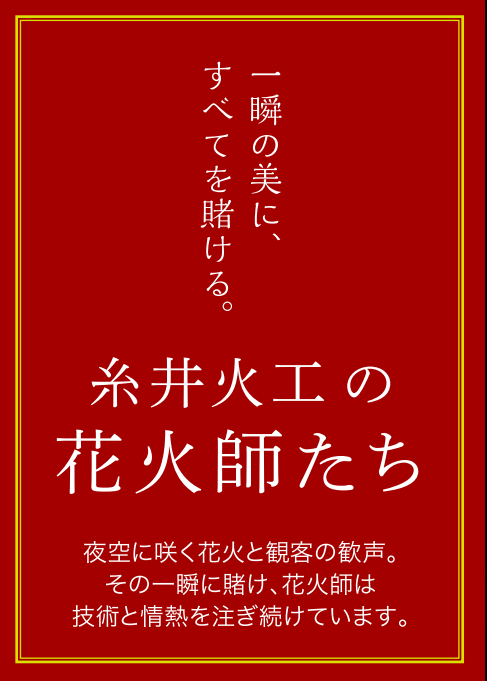
糸井火工にしかできない仕掛け花火があります。郡山市と岩瀬地区の唐傘行灯花火(郡山市は重要無形民俗文化財登録)。角形の枠行灯の上に閉じた唐傘が付けられ、導火線によって行灯に火が移ると、花火が四方に飛散。その後、導火線で上部の唐傘に移り、傘が開いて光が雨のように降り注ぐ仕掛けです。「唐傘行灯花火は先代が残してくれたうちの看板。次の世代につなげていきたい」と糸井社長。歴史



有限会社 糸井火工 福島県須賀川市矢沢字和久21

TEL.0248-65-2218 FAX.0248-65-3115
URL <http://www.itoikako.com/>
facebook <https://www.facebook.com/itoi.fireworks>

と伝統を受け継ぎながら新たなステージへ向かいます。須賀川市で脈々と受け継がれてきた花火師の技術と魂。職人たちの熱い思いにあふれた花火が、今年もふくしまの空を彩ります。



一瞬の美に、すべてを賭ける。

糸井火工の花火師たち

夜空に咲く花火と観客の歓声。その一瞬に賭け、花火師は技術と情熱を注ぎ続けています。

火薬を扱う花火師の仕事は、製造から打ち上げまで常に危険と隣り合わせ。最後まで気が抜けません。点火し轟音とともに打ち上がると、鮮やかな色の光で夜空を彩り、静かに闇の中へ消えていきます。一瞬の美にすべてを賭ける、糸井火工の花火師たち。社長の糸井一郎さんと、工場長の相谷孝寛さんに、その想いを伺いました。



◀写真左から 糸井一郎社長、相谷孝寛工場長



唐傘行灯花火

唐傘行灯花火は、糸井火工にしかできない同社の看板作品

